

「神のプロポーズ」

主任司祭 晴佐久昌英

復活祭の洗礼式に向けての準備が始まった。二月は洗礼申し込みの締め切りの時期なので、求道者と司祭との面接シーズンでもある。

この面接とは、洗礼志願書を提出した求道者と司祭が面談し、直接その思いを確認した上で洗礼許可証にサインするもので、それはすなわちその人を教会が正式に洗礼志願者として認めたということでもある。洗礼までの道のりの、ひとつの重要な節目とも言えるだろう。

これがなかなか大変で、長い時は二時間以上になるし、一日五人が限界なので、例年のように受洗者が百人近くいると、どうしてもひと月はかかる。しかしどんなに大変でも、一人ひとりの真剣な思いに触れるのは大きな喜びであり、すべての人を洗礼に招く神のわざに奉仕する司祭として、至福のひと月でもある。

面接の時、それまでの試練や苦悩を打ち明ける人も多く、福音に出会っていかにか救われたかと涙で語る人も少なくない。決心してなお自信を持ってない人もいるし、許可してもらおうと必死に信仰を表明する人もいる。まさに百人いれば百通りなのだが、ただひとつ共通しているのは、確かにそこに聖霊が働いているという事実だ。誠実にその話を聴いた上で、どうしても授洗は無理だと判断したことは、一度もない。

この心ときめくひと時は、実感としては「面接」というよりは「プロポーズ」に近いかもしれない。結婚式の前には当然プロポーズが必要だし、自分の思いを自分の言葉できちんと伝えなければ、結婚は成立しない。洗礼式は結婚式以上に重要であり、求道者が精一杯の思いを語るのも、それが神へのプロポーズだからだ。彼らは神様に、「あなたを愛している、あなたから離れては生きていけない、生涯共にいてほしい」と、必死に愛の告白をしているのだ。

それを受け入れて「わかりました。お引き受けいたしましょう」と、司祭が洗礼許可証にサインをするのは、神からの返答なのである。

「わたしも、あなたを愛している。わたしはあなたが生まれる前からあなたを愛し、プロポーズし続けてきた。受け入れてくれて、ありがとう。わたしは、永遠にあなたと離れない」